

P-1

殻付ハトムギの牛皮膚乳頭腫に対する有用性の検討

Effect of Coix seed with husks on Bovine Cutaneous Papillomas

○川島 拓也¹⁾、滝本 裕子¹⁾、中出 祐介²⁾、徳田 春邦¹⁾、Jeffrey Michael Strong¹⁾、
Andrew Schneider¹⁾、新井 隆成¹⁾、鈴木 信孝¹⁾

1) 金沢大学大学院医学系研究科、2) 金沢大学医学部附属病院

We evaluated the effect of Coix seed with husks on bovine cutaneous papillomas. Boiled Coix seed was administered to two cows with intractable cutaneous papillomas. The nodules disappeared or diminished on week 6. Further examination will be needed to confirm these findings.

【目的】

我が国では、宮崎県における口蹄疫発生など牛の伝染性ウィルス性疾患に対する注目度が増している。牛パピローマウィルス (BPV) については、2004 年から 2005 年にかけて北海道の一牧場で集団発生した難治性牛乳頭腫症が記憶に新しい。今回、我々は牛皮膚乳頭腫に対して殻付ハトムギを投与し、知見を得たので報告する。

【方法】

殻付ハトムギはボイルしたものをを用い(特許第 3590042 号)、被験牛 2 頭それぞれに、250g/日 6 週間摂取させた。

【結果】

① 29 ヶ月齢の黒毛和牛例：右側腹部に見られた少なくとも 8 週間以上自然退縮の見られなかった結節 3 個を観察対象とした。3 個のうち 1 個の結節は全切除後、病理組織検査を行い、ウィルス性乳頭腫と診断した。残りの 3×3×3cm 大の結節は摂取 6 週間後までに消失、3.5×3×2.5cm 大の結節は摂取 6 週目には縮小し 3×2×1cm 大の扁平な結節となった。

② 24 ヶ月齢の黒毛和牛例：左内眼角に見られた少なくとも 8 週間以上自然退縮の見られなかった 2.5×2×1cm 大と 0.6×0.6×0.6cm 大の結節 2 個を観察対象とした。それぞれの結節は、摂取 6 週間後には、0.6×0.6×0.6cm 大と 0.1×0.1×0.1cm 大に著明縮小した。

【結論】

殻付ハトムギは、牛の乳頭腫に有用である可能性が示唆された。今後は、さらに対照群を設置し、例数も増やして検討する予定である。